

千葉県衛生研究所 情報

Health 21

この情報誌は、公衆衛生に関する身近な話題、情報をお知らせするものです。

—— 目次 ——

◎ 感染症対策に思う	次	長 鶴岡 佳久	・・・ 1
◎ ペットのイグアナから感染したと考えられる乳児のサルモネラ症	細菌研究室	依田 清江	・・・ 2
◎ 2006年千葉県の麻疹（はしか）の流行から — お誕生日に、そして、小学校入学前に麻疹風疹ワクチンを—	感染症学研究室	一戸 貞人	・・・ 3
◎ 第45回千葉県公衆衛生学会発表演題	・・・・・・・・・・・・・・・・		4

感染症対策に思う

千葉県衛生研究所次長 鶴岡 佳久

感染症については、近年国際交流の活発化に伴い新興・再興感染症（0-157、ノロウイルス、MRSA等）が時として猛威を振るい国民生活に多大な影響を及ぼしている。明治30年に制定された「伝染病予防法」は100年余にわたりこれに基づいて二次感染防御の立場から、事後対応型の予防対策が行われてきたが、感染症を取り巻く疾病構造の変化に対応するため、従来の「性病予防法」及び「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」を包括した「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（新感染症法）が平成11年から施行され感染症の発生・拡大防止に努めるための事前対応型の新たな感染症対策が実施された。

感染症対策は、その原点となる病原体がどのような動きをしているか、言わば発生動向の疫学情報が重要なポイントとなる。

平成18年「新感染症法」の一部改正が行われ近く公布される。

今回の一部改正の主な内容は、生物テロや災害等病原体の流失による初期、初動対応等病原体の類型別の管理体制の確立、感染症の分類の見直し、新型インフルエンザに関する詳細な行動計画、そして、大きな柱として、結核予防法を「新感染症法」に統

廃合する等々、感染症の総合対策が推進される。

結核対策については、慢性の感染症として昭和26年に適正医療の普及を目的とした単独法として将来の撲滅を視野に推進してきたが、入院勧告等人権の擁護に配慮した「新感染症法」の範疇において必要不可欠な対策を引き継ぎながら一層の結核対策を構築することになる。

結核は潜伏期が長く慢性の感染症であり、今漸減傾向ではあるが決して好転しているわけではない。再興感染症としての多剤耐性菌の出現や今では超多剤耐性菌の出現も確認されているようである。

特に、治療中断者の問題は感染源の野放しに結びつき、薬剤耐性菌の温床になりかねない。感染源を1例でも減らすため直接服薬確認療法（DOTS）による強力な行政対応が必要となる。今後とも、保健所を中核とした「結核対策千葉方式 公式ハンドブック」による対策の推進に期待したい。

感染症対策は、健康危機管理の一環としてきめ細かな対策が講じられているがマニュアルや要領は手順のチェックであり疾病等の詳細な内容については、文献等により正しい知識として情報の収集に努めることが肝要である。

また、感染症対策の問題として風評被害と地域住

民のパニックが上げられる、これらを払拭することは至難の業であるが、これには説明の仕方、話し方、そして相手の立場に立って、心情やその場の雰囲気等十分考慮した衛生指導の対応が重要となる(正しい知識による安全・安心への理解)。

今や感染症は日常的に散発、集団発生が地域に起

きている、衛生研究所は、地域における科学的・技術的中核機関であり、病原体の所持機関として災害時の対応、病原体の取扱、保管管理、譲渡等、病原体の安全管理に万全を期すため適正な管理体制の再整備を行っている。

ペットのイグアナから感染したと考えられる乳児のサルモネラ症

最近しばしば、危険な外来生物がマスコミ等で話題になります。つい先日は名護市で、中国から輸入された衣料を試着した人がサソリに刺され5日間入院しました。有毒なセアカゴケグモは日本各地で見つかり、定着が危惧されています。本来日本に生息していなかった生物による生態系、環境、農林水産業への影響も指摘されています。これらのことから、平成17年には「特定外来生物による生態系等に関する被害の防止に関する法律(外来生物法)」が施行され、特定外来生物の飼育、販売、譲渡等が規制されました。特定外来生物は平成18年9月の第3次指定で全数83種類となりました。しかし当所では、この規制の対象外の外来生物による被害事例を経験したので紹介します。

千葉県内の病院に生後27日の乳児(男)が受診しました。主訴はお乳を飲まなくなった、元気が無い等で、体温は37.2℃でした。特定の疾患は認められませんでした。その後も同様の状態が続きました。約2ヶ月後、発熱、水様便数回の後、粘血下痢便になり、細菌性腸炎が疑われて入院しました。抗生剤が処方され、5日後、軽快・退院となったものの、9日後、再び下痢を呈し再治療を受けました。便の病原細菌検査でサルモネラが検出されましたが、この菌は血清型が不明でした。サルモネラの血清型とは、菌を構成する成分の違いを各成分の抗血清を用いて調べ、約2,500種類に型別するもので、菌株毎に固有のものです。従って血清型は、その菌の由来を知る疫学情報として重要です。そこで、当所において患者由来株を精査し、菌種の同定と共に血清型別を行ったところ、*Salmonella enterica subspecies houtenae* (O45:g,z51:-) という非常に珍しいサルモネラであることが分かりました。この菌は日本での

検出報告はありませんが、米国、カナダで乳幼児の感染例が相次いでおり、感染源が特定された例は全てイグアナ由来でした。そこで、患児の再診時、母親にペットの有無を尋ねたところ、約1年前からイグアナを飼育していることが分かりました。このイグアナの糞便を直接検査することは出来なかったのですが、国内で飼育されているイグアナの調査で、*Salmonella enterica subspecies houtenae* (O45:g,z51:-) は腸管常在菌の1種であることが分かりました。患者は生後3ヶ月であり、市販食品や家庭外の動物および環境中からの感染は考え難いです。これらのことから、患児は家庭で飼育されているイグアナから、母親、兄弟等を介して感染したと推定しました。

近年はペットブームで、イヌやネコ等の従来からの動物に加え、外来性動物の愛好家が増加しています。特にイグアナは、草食性のおとなしい動物で飼育しやすいことから人気が高く、家庭の室内で人がだっこしたり、同じテーブルで食事する、布団に入れて寝る等、緊密に接するようです。イグアナに限りませんが、動物に触ったら必ず石けんをつけて手を洗い、動物の身の回りは清潔にし、糞尿は速やかに処理する、室内で飼育する場合は喚気にも注意しましょう。特に乳幼児、老人などがいる家庭では、動物との過剰な触れあいは控えるなどの配慮が必要です。

(細菌研究室 依田清江)



2006年千葉県の麻疹（はしか）の流行から —お誕生日に、そして、小学校入学前に麻疹風疹ワクチンを—

昨年の4月から5月にかけて千葉県では麻疹の流行があり、「麻疹の多発県」という不名誉なレッテルを貼られてしまいました。しかし千葉県での麻疹定点報告数を見ると、2001～2002年は1,000を超えています。2004年以降は100例以下になっています。定点報告数の10～15倍が実際の発生数とされるので、発生数は10,000人以上から1,000人以下になったと考えられます。結局2006年の千葉県の麻疹定点報告数93で多くはありませんでしたが、それにもかかわらず全国では更に減少していたため千葉県が目立ってしまった訳です（表、図1）。

麻疹の減少は2000年に始まった「お誕生日に麻疹ワクチンを」というキャンペーンによって1歳時の麻疹ワクチン接種率が上昇したためと思われます。

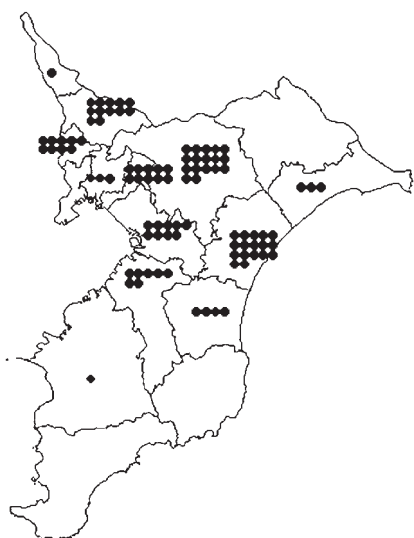


図1 2006年保健所管内別麻疹報告数

表 全国と千葉県の麻疹の定点報告数の推移

	全国	千葉県	全国に千葉県の占める率(%)
2001	33,812	1,484	4.4
2002	12,473	1,321	10.6
2003	8,285	623	7.5
2004	1,547	72	4.7
2005	537	34	6.3
2006	584	93	16.4

今回の千葉県の麻疹流行には3つの特徴がありました。1番目はこれまで10%以下であった15歳以上が25%を占め年長者特に高校生の発症が多かったことです。2番目はワクチン接種者での発症が目立ったことです。学校と保健所による習志野の高等学校の集団発生の調査では、医療機関で32名の生徒が麻疹と診断されこのうちワクチン接種者は26名（81%）でした。もちろんワクチン接種者は未接種者に比べて発症率は低く、ワクチンの有効率は87%と悪くはないものでした（図2）。3番目は麻疹の3つの症状すなわち発熱、発疹、カタル症状（眼脂、咳など）がそろった典型例が少なかったことです。千葉市医師会で行っている麻疹の全数報告システムで分ったことですが、ワクチン接種者で血液の麻疹IgM抗体検査で診断が確定されたワクチン接種者19名で3つの症状がそろっていたのは42%に過ぎませんでした。これらの理由は、麻疹発生数の激減によりワクチン接種者が麻疹患者に接触することが少なくなり抗体が低下し、ワクチン接種のおかげで症状は軽く典型的とはならなかったと考えることができます。このことはむしろ日本での麻疹ワクチン対策が効果を上げてきていることを意味します。麻疹の撲滅に成功した米国では麻疹ワクチンの2回接種が行われていますが、2回接種はこのようなワクチン接種者の発症を防ぐための対策です。

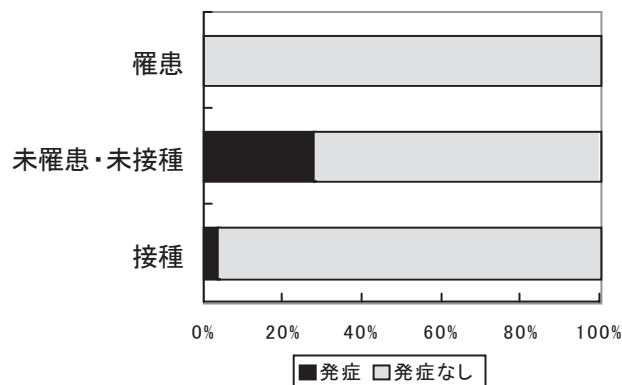


図2 高等学校麻疹集団事例での麻疹ワクチン歴、罹患歴と発症

日本でもようやく昨年の6月に麻疹風疹混合ワクチンを2回定期接種することが決まりました。その方法は麻疹風疹混合ワクチンを用いて、1回目は1歳にそして2回目は小学校入学直前の3月までの1年間に行うというものです。しかし法律の改正時期が6月であったため市町村の準備や住民への周知が

不十分で、11月時点の千葉県の調査では2回目の接種率が35%程度で決して高くない状況にあります。「お誕生日に、そして、小学校入学前に麻疹風疹ワクチンを」の合言葉で2回目の接種率も上昇させ日本から麻疹を排除したいものです。

(感染症学研究室 一戸真人)

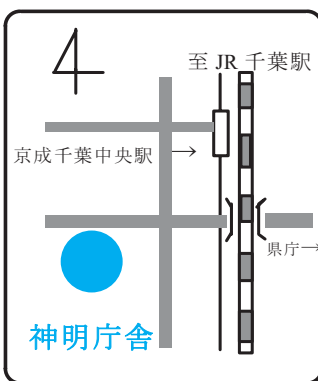
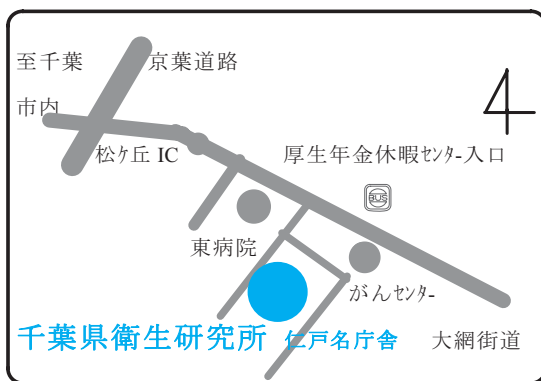
第45回千葉県公衆衛生学会発表演題

日時：平成19年2月22日(木) 場所：千葉市文化センター

- ◎ 千葉県における基本健診データ収集システム確立事業について (第3報)
 - 須田 和子 (健康疫学研究室) 他7名
- ◎ 高校生における骨量評価値と生活習慣の関連
 - 柳堀 朗子 (健康疫学研究室) 他6名
- ◎ インターネットを活用した健康・医療・福祉の情報提供について
 - 県民の情報入手および要望についてのアンケート調査から -
 - 小林八重子 (健康疫学研究室) 他4名
- ◎ アンケート調査へのマークシート方式導入の検討
 ドキュメントスキャナーと読み取り集計ソフトの使用について
 - 茂野 誠一 (健康疫学研究室) 他5名
- ◎ 健康食品から検出された強壮成分について
 - 石井 俊靖 (医薬品研究室) 他3名
- ◎ 違法ドラッグ対策事業に係る試験検査状況について
 - 長谷川貴志 (医薬品研究室) 他3名
- ◎ 健康食品中に含まれる医薬品成分の一斉分析について
 - 西條 雅明 (医薬品研究室) 他2名
- ◎ 温泉の泉質名変更の要因となった主要成分について
 - 小高 陽子 (生活環境研究室) 他4名

千葉県衛生研究所ホームページ http://www.pref.chiba.jp/syozoku/c_eiken/index.html

千葉県感染症情報センターホームページ <http://www.phlchiba-ekigaku.org>



Health 21 No.16
 千葉県衛生研究所情報 2007.2.9
 編集・発行：千葉県衛生研究所情報誌
 編集委員会
 事務局：感染症学研究室
 260-8715 千葉市中央区仁戸名町 666-2
 Tel: 043-266-6723 Fax: 043-265-5544